第75号
2026.10

安心のオンライン医療通訳

medi-way 医療通訳だより

Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.38　　中国語担当　簡さん

◆なぜ医療通訳者になった？

留学で日本に来たばかりのころは、日本語があまり話せませんでした。言葉の壁のために、勉強も買い物も、友達との交流もうまくいかないことがしばしばありました。その後、日本語の先生や友達のおかげで、だんだん話せるようになりました。私も誰かのお役に立ちたいと思い、医療通訳を勉強し始めました。勉強すればするほど、医療通訳にやりがいを感じ、そして医療通訳の仕事に挑戦したいと思うようになりました。

◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

言葉の壁や文化の違いのために、病院を受診する患者さんは不安を抱えていることも少なくありません。これまで経験した中で、通訳を開始する前に、既に患者さんが泣いてしまっていたり、怒ってしまっていたりと、とても感情的になっていたことが数件ありました。そのようなときでも、通訳を通して患者さんの不安を医療従事者の方に伝えると、患者さんも落ち着き、また医療従事者の方も患者さんの思いを理解しながら、治療や処置を進められるようになりました。その様子を見ると再び医療通訳のやりがいを実感して、とても嬉しく感じました。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

正確に訳すために、普段はクイックレスポンスとノートテイキングを練習しています。そして記憶力をトレーニングするために、出勤する前、必ずリテンションを練習します。また勤務日に予約の入っている案件については、事前に関連する専門知識を勉強したり、専門用語を調べたり、前回担当した通訳士が書いたレポートを読んだりしています。他には、訳し方や通訳倫理に関する質問を、通訳の先生やセンターの先輩方に積極的にしています。



世界の朝食



海外で朝の街を歩くと、それぞれの国の朝食文化が見えてきます。

イタリア人は朝からカプチーノと甘いコルネットを食べます。ローマでは生クリームたっぷりのマリトッツォも朝食の定番。健康オタクの医療通訳士は「朝から血糖値が…」と心配に。でも彼らにとって朝に甘いものを食べることが幸せなのです。

台湾のように、朝食は外食で、という習慣が根づいている地域もあります。ペルーもその一つで、豚肉入りのタマレスやパン・コン・チチャロンなどのボリュームたっぷりの朝食は、ペルー出身の通訳士にとって懐かしい記憶とのこと。

韓国では、朝からキムチやニンニクを食べるのが一般的。日本では朝から臭いの気になるものは避けられがちなので、韓国語通訳士は、日本に来てからは「朝からキムチやニンニクはやめる!」と決意(笑)。

「朝食=健康的に」は、日本ならでは常識なのかもしれません。医療の現場でも、食事を、国の背景から知ることが大切です。患者さんの朝食を知ることは、その人の文化や暮らしを知ること。世界の朝食から、そんなことを教えてもらいました。

今月のトピックス



「当たり前」の中にある安心



先日、パートナーと長期旅行中に思いがけず日本で出産された若い女性の通訳を担当しました。妊娠の週数や予定日を尋ねても曖昧で、定期的な妊婦健診も受けていなかったようです。

日本で二度の出産を経験したペルー出身のスペイン語通訳士に当時のことを聞くと、妊娠後期の大きなお腹で週1回の健診に通うのは少し負担だったものの、今では日本の妊娠・出産を支える医療の素晴らしさを実感しているとのこと。ペルーに住む妹に聞くと、「日本のような定期健診はなく、それが普通なので気にならない」と話していたそうです。

国が違えば、医療の受け方も「当たり前」も違います。日本では当たり前の丁寧な診察や説明が、外国人患者さんにとって大きな安心につながることもあります。

その安心がきちんと届くよう、「当たり前」の違いをそっとつなぐこと。それも医療通訳士の大切な役割だと思っています。

日々患者さんに寄り添う医療従事者の皆さまに、心から「ありがとうございます」とお伝えしたいです。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail：tic@towaeng.co.jp